
広げよう！学びと仲間の輪

～寺子屋～

第1章 プロジェクトの概要など

1. プロジェクトの名称、目的など

本プロジェクトの名称は、「広げよう！学びと仲間の輪～寺子屋～」である。

私たちが生きる現代は隣に住んでいる人を知らない、言葉を交わしたことがないなど、家庭と地域社会との関わりが希薄になってきている。さらに、2020年の新型コロナウイルスの拡大により学校は一時休校など、ますます人と関わる機会が減ってしまった。そのように社会が複雑に、不安定になるにつれて、様々な人と関わる力が子どもたちに求められているが、それを学校教育だけで育むことは容易ではない。そこで私たちは、かつて「寺子屋」として教育を担ってきた、教育の原点ともいえる寺院に着目し、社会教育の視点から子どもに関わろうと考え、本プロジェクトを行うこととした。

2. 代表者および構成員

・代表者

梅田ちひろ 社会領域専攻 4回生

・構成員

木本玲央 社会領域専攻 4回生

山本拓人 理科領域専攻 4回生

浅澤一朗 理科領域専攻 4回生

奥山加奈子 国語領域専攻 3回生

道端啓吾 理科領域専攻 3回生

富永葵海 理科領域専攻 3回生

小坂陽加里 理科領域専攻 3回生

林英美里 英語領域専攻 1回生

岡田夏歩 英語領域専攻 1回生

北角美乃 英語領域専攻 1回生

3. 助言教員

市田克利先生（教職キャリア高度化センター）

4. 協力団体

遍照院（京都府宇治田原町）

本プロジェクトで予定していたイベント会場であり、イベントの企画から協力していただいた。

第2章 内容や実施経過など

1. イベントの準備

(1) 当日の企画

◎時期：4月～7月

寺院、遍照院に協力していただき、開催する2回のイベント「てらこやへんじょういん」の内、8月に予定していた分の企画を主として行った。学生全体での打ち合わせはなく、グループLINEでの情報共有、またその企画に携わっていた学生のみを集めての打ち合わせを2回行った。遍照院とは3月、4月に1回ずつ日程調整や新型コロナウイルス感染対策を中心に打ち合わせを行った。

8月の企画については以下の通りである。

【新型コロナウイルス感染予防対策について】

- ・イベントや現場での打ち合わせの2週間前から毎日の健康チェックを行う。
- ・手指衛生管理
- ・イベント当日の3密の回避
- ・濃厚接触等の恐れがある活動は行わない。
- ・環境消毒の徹底
- ・イベントでの飲み物は各自で用意、持参してもらい、これを共有することは禁止する。

◎当日の感染予防対策

- ・予め会場の消毒作業を行う。
- ・参加者には2週間前から健康観察を依頼。
- ・当日参加する学生、お寺のスタッフも同様に健康観察を実施。
- ・受付時に、検温と消毒、口頭での健康チェックを行う。
- ・使用する机は1人1台とし、十分な間隔を

加、②コロナ渦を考慮したスケジュールの2点に重きを置いて活動を開始した。①については、新たに3人の1回生がプロジェクトに加入し、アイスブレイクや工作の考案などイベントの企画に精力的に参加してくれた。②については、昨年度の経験を活かし、イベント日程を4月の企画の段階で8月と11月の2回設定し、今年度こそイベントが実施できるよう動いた。それぞれの活動も8月は従来通りの内容で、11月は新たな試みをしようと考えていた。また、新型コロナウイルス感染対策も昨年度以上に慎重に、より注意深くお寺との確認も重ねた。

反省点としては、豊富にいる学生の力を活用できなかったこと、これまでのイベント参加者や地域の人々とのつながりが全くもてなかったことである。プロジェクト継続のための活動が全くできなかったことは今後の活動に大きく関わってくるだろうと考えている。また、2年前の参加者のほとんどが高学年、あるいは中学生となっており、来年度以降イベントを行うとな

ると新規の参加者も募る必要がある。新型コロナウイルスの感染状況がどのようになるか分からないが、ある程度広告活動などが規制された状態でどこまでこのプロジェクトを地域の方に周知してもらうことができるか考えていかなければならない。

2. 今後の展望

(1) 学内における活動

今後の展望として、まず、学内における広報活動を行いたいと考えている。私たちの活動をより多くの学生に知ってもらい、様々な学年・領域の学生が集まるという強みを生かしてより良いイベントの企画などを行っていければと考えている。

(2) 学外における活動

今年も夏休みに遍照院をお借りして開催したイベントのみであったが、今後は外部団体と協力したり、遍照院での新たな活動を企画したりなど、活動の幅を広げていきたいと考える。